

鹿屋体育大学

鹿屋体育大学 梶 ちか子

1. 本学の概要

鹿屋体育大学は、「体育、スポーツ、レクリエーション及び武道に関する理論と実践を教授研究し、もって豊かな教養と高い学識及び優れた技能を合わせ備えた実践的、総合的なスポーツ・健康に関する指導者を養成するとともにスポーツ・健康に関する理論や実践の深奥をきわめ、その進展に寄与すること」を目的として、1981年(昭和56年)10月に設置され、1984年(昭和59年)4月より学生の受け入れを開始した。(開学四十周年記念誌～未来をひらく～より)

「スポーツで未来を拓く自分を創る」をキャッチコピーとして、国立唯一の体育大学であるという特徴を余すことなく活かし、スポーツ・武道及び体育・健康づくり・競技力向上において、他の大学ではなしえない取り組みに挑戦し続けること、そのために、研究活動で様々な知見を獲得し、得られた知見を教育により学生に伝え、社会で活躍できる人材として輩出すると

同時に、得られた知見を社会に対し積極的に発信するほか、社会からの多様な要請に応えるべく本学の英知を結集し、社会の発展のために貢献することを目標に掲げている。(鹿屋体育大学 第IV期中期目標前文より)

また、スポーツを取り巻く状況の様々な変化を踏まえて、2050年をターゲットイヤーとし、我が国のスポーツの各領域において、将来的にも先導的役割を果たす大学であることを目指して、「NIFS NEXT30」のビジョンが策定されている。特に「教育・学生支援」「研究」「国際化」「社会連携・社会貢献」を重点領域とし、各領域において設定されたミッションの達成を目指し、さらに育成する学生の特徴を表すスローガンとして【活気ある(Active) 独創的な(Creative) 精鋭たち(Elites): A.C.E. Kanoya】を掲げている。

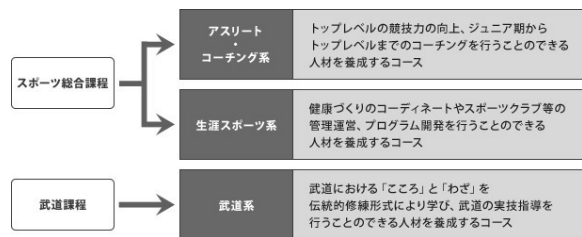
2. 学部・研究科の概要

鹿屋体育大学体育学部では、スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成することを目標に、体育学部にスポーツ総合課程及び武道課程を設定し、各課程の中に下図に示すように3つの系(柔軟なコース)をそれぞれの専門に向けた勉強ができるように編成されている。

大学院は、体育学研究科に体育学専攻として修士課程と博士後期課程を、また、筑波大学との共同専攻としてスポーツ国際開発学共同専攻(修士課程)、大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)を、さらに連携大学院教育プログラムとして、修士課程と博士後期課程と、様々な特色ある専攻が設置されている。



鹿屋体育大学 HP 大学ビジョン「NIFS NEXT30」
<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/overview/nifs-next30/>



鹿屋体育大学 HP スポーツ総合課程及び武道課程の目標
<https://www.nifs-k.ac.jp/faculties/physical-education/corse-goals/>

3. 主な体育関連施設

敷地面積364,362㎡を有する白水キャンパスには、主体育室、体操練習室、ダンス練習室、トレーニング室を備えた総合体育館、バレーボール練習室、バドミントン練習室、卓球練習室の3つの独立した練習室を備えた球技体育館、最新鋭の実験機器を備えた屋内実験プール、柔道場、剣道場、相撲場のある2階建の武道館、弓道場、トレーニング場等がある。また、3種公認競技場でナイター設備、1,000名以上収容可能なスタンドを備えた陸上競技場、公式競技用としても使用可能で全面芝張でナイター完備のサッカー場・ラグビー場・ホッケー場、両翼92m、中堅117mで内野はクレイ、外野は全面芝張、また、本部席、スタンド、ダッグアウト及びスコアボードなどの設備が揃った野球場、三面分の広さを持つビーチバレー場、全面ハードコート（14面）で照明設備のあるテニスコート、その他、ゴルフ練習場、多目的グラウンド、屋外体操練習場なども完備されている。

高須キャンパスには、海洋スポーツセンターが整備され、海洋スポーツに関する理論教育・実技指導及び研究活動が行われている。

さらに、平成27年3月設置された SPORTEC スポーツパフォーマンス研究センターは、国内初のスポーツ分野のコーチングに必要なパフォーマンス研究の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設である。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。



高須キャンパス
(鹿屋体育大学施設整備マスタープラン2023より)

施設

CAMPUS AND FACILITIES

① ゴルフ練習場
練習場は全面芝張で長さ90m、幅180m、フェアウェイは120m×180mの広さです。

② スポーツパフォーマンス研究センター
スポーツパフォーマンス研究センターは、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

③ 総合体育館
総合体育館は、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

④ 陸上競技場
陸上競技場は、全面芝張で長さ92m、中堅117mで内野はクレイ、外野は全面芝張、また、本部席、スタンド、ダッグアウト及びスコアボードなどの設備が揃った野球場、三面分の広さを持つビーチバレー場、全面ハードコート（14面）で照明設備のあるテニスコート、その他、ゴルフ練習場、多目的グラウンド、屋外体操練習場なども完備されている。

⑤ トレーニング場
トレーニング場は、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

⑥ サッカー場・ラグビー場
サッカー場は全面芝張で長さ90m、幅180mの広さです。ラグビー場は全面芝張で長さ90m、幅180mの広さです。

⑦ 野球場
野球場は全面芝張で長さ90m、幅180mの広さです。フェアウェイは120m×180mの広さです。

⑧ 総合体育館
総合体育館は、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

⑨ 武道館
武道館は、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

⑩ 総合体育館
総合体育館は、最新の科学的検証を行う最先端研究設備を備えた屋内研究施設です。世界で唯一の50メートルフォースプレート走路を始め、最新研究設備が整備されており、陸上、テニスなどの個人種目に限らず、野球やサッカーなどのチーム種目の身体活動量測定やゲーム分析を始め、多様なスポーツパフォーマンス計測に対応可能である。

⑪ 陸上競技場
陸上競技場は、全面芝張で長さ92m、中堅117mで内野はクレイ、外野は全面芝張、また、本部席、スタンド、ダッグアウト及びスコアボードなどの設備が揃った野球場、三面分の広さを持つビーチバレー場、全面ハードコート（14面）で照明設備のあるテニスコート、その他、ゴルフ練習場、多目的グラウンド、屋外体操練習場なども完備されている。

⑫ サッカー場・ラグビー場
サッカー場は全面芝張で長さ90m、幅180mの広さです。ラグビー場は全面芝張で長さ90m、幅180mの広さです。

白水キャンパス建物配置図
(鹿屋体育大学施設整備マスタープラン2023より)



鹿屋体育大学 HP 教育研究施設

<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/facilities/educational-research/>

4. 特色のある主な取組

(1) 学生挑戦プロジェクト

学生の叶えたいプロジェクト、実現したい企画を募集し、その実現を支援することにより、学生の自主性、企画力、創造性を養うとともに、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的として、毎年実施されている。①個人では実現が困難な大きな夢が盛り込まれた企画、②キャンパスライフを充実・活性化させる企画、③地域とのつながりが深まる企画のいずれかの内容を含むもので、企画に必要な経費として、1件につき、国内挑戦分15万円、海外挑戦分30万円を限度額として支援されている。



We welcome your challenge.

次は君の番だ！

鹿屋体育大学 HP 学生挑戦プロジェクト

<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/distinctive-initiative/student-challenge-project/>

(2) 体育・スポーツ教育強化プログラム

スポーツ等の国内・国際的な優れた体育・スポーツ人やスポーツと DX 技術に精通した人材の養成を念頭に、学部入学から大学院修士課程までの6年間を通じ、正課教育を補足する「準教育（準正課活動）」として、優秀かつ積極的な学生に対して、体育・スポーツ教育強化プログラム「SHEEP: Sports and Health Education Enhancement Program」を運用している。

所属学生には、英語研修プログラムの受講と2回のTOEICの受験料の支援や研究費の支給、SHEEP 学生専用のゼミ室の使用、SHEEP ミーティングによる研究発表などの交流会、個別のオンライン学修の受講提供（オンライン研修プログラム Udemy の利用）、セミナーの受講を希望する講師の招へい（企画・運営を行う）、先輩学生（大学院生を含む）とのゼミ選び相談会、研究室訪問の機会提供（研究室ツアー）など多岐にわたる。



鹿屋体育大学 HP 体育・スポーツ教育強化プログラム

<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/distinctive-initiative/sheep/>

(3) スポーツイノベーション推進機構

本学において、アスリートの育成や様々なライフステージに合わせた体力・健康増進に関わるプロジェクトを行い、それらの研究・プロジェクトで得られた知見に基づいて、体育・スポーツ分野における運動実践の指導モデルを構築し、その成果を広く社会に還元するとともに、高度で良質な実践の指導者を育成するために、本学の研究資源を統合し、先端的な研究を推進することを目的として令和5年1月1日に設置された。機構には、3つの部門（スポーツサイエンス、スポーツパフォーマンス・コーチング、ヘルス・スポーツプロポジション）と2つの室（リサーチアドミニストレーション、教育支援室）が設置されている。これらの部門・室が連携し、異なる分野の専門家が互いに協力し合いながら研究・教育を進めている。

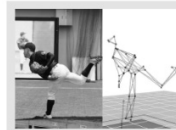


5. まとめと今後の課題

鹿屋体育大学はスポーツ・武道に特化した素晴らしい教育研究設備に加え、特に学問として「武道」や「海洋スポーツ」が学べる点、さらに少人数ならではの様々な手厚い学生支援が特徴である。国立唯一の体育系単科大学という特徴を生かし、今後もオリジナリティの高い教育・研究を追究していく。

研究

ヒューマンパフォーマンスの限界への挑戦



VRトレーニング開発
モーションキャプチャー等で得られたデータをもとに、リアルかつ統制可能な環境でのメカニズムの解明を進めています。



スプリント走パフォーマンスに関する国際的な実践研究
フォープレート、モーションキャプチャー等の最先端の設備を用いてスプリント走の計測を行っています。



トレーニングやストレスに対する人の身体の適応に関する研究
運動などのストレスに対する人の身体適応および機能的適応の解明を行っています。



リアルかつ統制可能な環境でのメカニズムの解明
AIを活用した高度計測、データサイエンスの手法を活用した身体パフォーマンスを評価するシステム、ツールの開発を行っています。



けがを知る、自分を知る、予防法を知る
フォープレートを用いて着床評価を行い、どのような状況下で怪我が発生するか、それをどのように予防するか解明を進めています。

スポーツと科学の融合



バレーボール
スパイク等の動作をモーションキャプチャー等で撮影し、フォームの改善を具体的に明らかにします。



陸上
データをもとにスピードを上げるコツをつかみ、機能的限界に挑戦しています。



サッカー
実戦環境から得られるトレーニングデータをもとに、サッカーを分析しています。

ウェルビーイングの向上



健康寿命延伸に寄与する運動プログラムの開発・普及
『Essaid(エッセイド)』、『Eshial(エシアル)』(50歳以上者向け)、『親子での運動遊び』等の様々な運動プログラム開発を進めています。



ICTを活用した地域社会のウェルビーイング向上
地域在住高齢者を対象に介護予防事業を実施しています。タブレット等の電子機器を用いた介護予防運動を促進することにより、身体機能維持がAIによる画像解析（歩力・歩数・歩幅・歩速）の検出・改善に繋がります。



生活習慣病予防に向けた運動の効果検証
市民が健康づくりのために実践できる市内ウェルビーイングコースとして認定したキャラクターイベント「ミッシェンウォーキング」を実施しています。



子どもから高齢者までスポーツ交流人口拡大に向けた実践研究
大学スポーツを通して、鹿屋市をはじめとした地域との交流の輪を広げて地域活性化に寄与する取組『Blue Winの事業』を実施しています。

鹿屋体育大学 HP
スポーツイノベーション推進機構の特集
<https://www.nifs-k.ac.jp/aboutus/overview/sports-innovation/>